

5 研究会参加報告

(1) 日本工学協会 (JAET) 「教育の情報化」実践セミナー2015 in 高知

21世紀型学力の育成を目指した授業づくり

—ICT活用による協働学習の充実—

① 日時 平成27年7月26日(日)10~16時

② 場所 高知大学朝倉キャンパス

③ 内容

ア 基調講演 放送大学 中川一史教授

コミュニケーションを通して協働学習を行うことで新たな価値を見出す教育を目指すことが大切である。コミュニケーションの「からみ」と思考の「ゆらぎ」が生まれる授業デザインを設計しなければならない。思考を可視化させるツールとしてタブレット端末を活用する。タブレット端末の活用の是非は、「書き込みやすい」「見やすい」「動かしやすい」「重ねやすい」など「〇〇しやすい」をキーワードに活用の必要性を問い直してみるとよい。

イ 実践報告Ⅰ

高知県の小中学校での、タブレット端末・電子黒板・デジタル教科書等の活用の実践報告が行われた。高知県では、いくつかのモデル校に電子黒板とタブレット端末がセットで導入されている。

ウ 実践報告Ⅱ

- ・ 東京書籍デジタル教科書の活用報告

現在、光村図書をはじめとした教科書会社がCoNETSを立ち上げ、CoNETSをプラットフォームとしたデジタル教科書を開発している。しかし、現段階では操作性が悪く、データの読み込みに時間がかかる難点がある。東京書籍は独自のデジタル教科書を製作し、CoNETSと比較すると軽く動くというよさがあることが分かった。

- ・ スズキ教育ソフト「ラグーン」の活用報告

6年生社会科「3人の武将と天下統一」の学習で、授業支援ソフト「ラグーン」を活用した。児童一人一人がタブレット端末で「長篠合戦図屏風」を拡大し、描かれている情報をより詳しく読み取った。また、気付いたことをデジタル付箋紙に書き込んだ。このデジタル付箋紙は、全体で情報を共有・整理・分類することができる。意見を内容ごとに分類して提示することができるので、児童の話合い活動を活性化させることができる。

エ ワークショップ

各種機器の体験と活用にむけたアイデアの交流を行った。

オ 対談「ICT活用による協働学習を充実させるポイント」

放送大学 中川一史教授 × 大阪教育大学 木原俊行教授

協働学習の成立条件として、話し合いの実現・認め合いの充実・自らの思考・表現の洗練・子どもの自律的な学習が挙げられる。教師は、何が問題で、何が同じで何が違うのか、だれと同じなのか、子どもたちの考えを整理・確認をしていかなければならない。協働学習の結合子は(教科学習では主として)教師から提供することとなる。話し合い、最適解の追究をしていくことが協働学習の肝である。

タブレット端末は、学びを持続・発展させることができる。今後、学習場面を家庭にまで拡張させ、保護者と協働して学ぶことも可能となる。